

第13回 鴨叡会・生命分子化学科セミナー

《講師》

河原 一樹 先生（奈良女子大学）

《演題》 **考古資料中に潜むタンパク質の
構造安定性と分析可能性**

《日時》 **3月21日(木)午後4時30分から**

《場所》 **京都府立大学合同講義室棟3階第4講義室**

《講演内容》

タンパク質は、絹や毛皮で作られる衣類や、墨などの筆記用具、そして仏像や絵画などの美術工芸品の膠着剤として、古代より様々な製品に利用されてきた稀有な素材であるが、容易に想定される経年劣化や微生物による分解のため、これまで考古学的な分析対象とはならなかった。しかしながら、近年、膠着剤原料の一種であるコラーゲンや絹糸の主成分であるセリシン、フィブロインなどが数百年（場合によっては数千年）の時を経てもなお分析可能な状態で存在することが確認されており、タンパク質が新たな考古学的分析対象となる可能性が示唆されている。

本発表では、考古資料の質量分析を中心とした科学分析を通して、現在も十分に理解されていないこれらのタンパク質の構造安定性を考察し、分析する我々のアプローチを紹介する。

《連絡先》

織田 昌幸（生命物理化学研究室）

E-mail; oda@kpu.ac.jp, Phone; 075-703-5673